

血斑卵（血卵）の発生機序

まず排卵について説明しましょう。

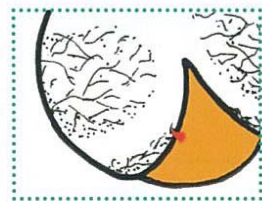
卵胞の構造は、多量の卵黄を含んだ卵細胞とそれを囲む卵胞壁からなり、排卵とは卵胞壁のスチグマが開裂して卵黄が排出される現象をいいます。卵胞壁には毛細血管が豊富に分布していますが、1～3mm幅の帯状に存在するスチグマには肉眼的には血管が認められないため、排卵時には出血しにくくなっています。



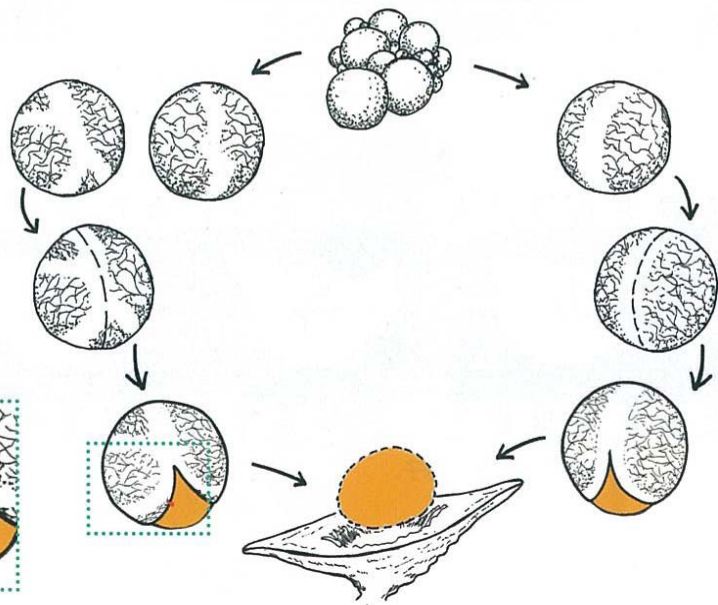
直線的なスチグマ

よく見ると、卵巣はまるでブドウの房のようです。それにスチグマはまだ卵胞が小さいうちでも認められますね。

卵胞の表面の血管の走り方が異常でスチグマの形がいびつだと排卵時に毛細血管が破れやすく、このスチグマの構造に起因する出血には、遺伝的要因が強いとの考えが有力です。少量の血液付着の原因としては、おそらく大半が排卵時の出血と考えられますが、多量の血液混入の場合、卵管からの出血の可能性も考えられるでしょうね。



排卵時に出血しやすい



転載元：「けんぞう先生の卵事例ハンドブック」P.95（発行所：株式会社鶏卵肉情報センター）